平成２９年度　甲佐町立甲佐小学校　学校便り

清　流

目指す学校像
子どもの笑顔が輝き
勢いのある学校

No．42（H30．3．8発行）文責　校長　福田雅也

道徳教育は改革されますが…

３月１１日は、東日本大震災から7年を迎える日です。２０１７年３月時点での、この震災での死者は１５，８９３人、行方不明者が２，５５３人と発表されています。この震災が原因で起きた福島第一原子力発電所の事故も含め、戦後の日本が経験した最大の災害となってしまいました。

震災後の報道や出版物等で、多くの死者・行方不明者一人一人に家族があり、日常営んでいた生活があり、直面した災害に必死に立ち向かった現実があったことを再認識する機会が多くありました。

遠藤未希さんもその中の一人です。防災対策庁舎から最後まで住民に避難を呼びかけた後に亡くなった女性と言えば、お分かりいただけるかと思います。宮城県南三陸町の危機管理課職員であった遠藤未希さん（２４）は防災対策庁舎の２階にある放送室から「大津波警報が発令されました。高台に避難してください。」「６メートルの津波が予想されます。」「異常な潮の引き方です。逃げてください。」等の放送を３０分も続けたそうです。しかし、その頃、津波は庁舎に迫りつつあったのです。遠藤さんたちは、上司の指示で屋上へ避難しました。しかし、津波の後、屋上で生存が確認された１０人の中に遠藤さんはいなかったのです。

南三陸町の住民約１７，７００人のうち、半数近くが避難して助かりました。遠藤さんは、強い責任感で果たすべき職責を全うしたといえるでしょう。

佐藤愛梨ちゃんもその中の一人となってしまいました。高台の幼稚園を出発した送迎バスが、海沿いを走ったために津波にのまれ亡くなった園児の中の一人と言えば、お分かりいただけるかと思います。地震の後、宮城県石巻市の日和幼稚園を１２人の園児を乗せて出発した送迎バスは、７人の園児を自宅等へと送った後、津波の危険を感じ園に引き返す途中で、その津波に襲われてしまったのです。佐藤愛梨ちゃん（６）は、車内で怖がる友達に「大丈夫、怖くないよ。」と声をかけ、歌で励ましていたと言います。歌っていた歌は「♪ありがとうって伝えたくて一♪」この歌は、４日後に控えた卒園式で歌おうと、愛梨ちゃんがお母さんと毎日練習していた歌だったそうです。（先に降りて助かった園児の後日証言より）

愛梨ちゃんのことは絵本になっています。題名は「あなたをママと呼びたくて…天から舞い降りた命」お母さんは「人を思いやる心や命の尊さを、愛梨が身をもって教えてくれた。」と言われています。

日常を奪い去られた大きな災害の中で、「死」という極限状態に直面しながらも、人としての尊厳や道徳性を失わずに行動されたエピソードは、これらの他にも多く報道等がなされています。また、被災後の避難所での秩序ある行動等は、日本人の素晴らしさとして海外でも高く評価されました。

話は少しとびますが、教育改革の中で道徳の授業の教科化が決定し、来年度からは教科書を使用し、評価も入ってくることになりました。国が道徳教育には改革が必要と判断した結果なのでしょう。

そう考えながら、前述の事実を見直してみると、佐藤さんは２４歳、まさに今の道徳教育を受けてこられた方です。愛梨ちゃんは６歳ですが、愛梨ちゃんを育てたお母さん（熊本ご出身です）は当時３６歳、やはり今の道徳教育で育った方と言えるでしょう。この場面での二人の言動を道徳教育と結びつけるのは適当ではないかもしれませんし、道徳教育の結果だけでもないでしょう。しかし私は、避難所での秩序ある行動も含め、現在の道徳教育を受けた日本人の道徳性は決して捨てたものではないと思うのです。

私たちが心に刻むべき３月１１日を前に、私はこんなことを考えていました。

とにかく、私たち教師は、今までやってきた道徳教育にしっかりと自信をもちつつ、改革される部分には、しっかりと対応し、二人に負けないような豊かで素敵な心をもった子どもたちを育てていきたいと思っています。